

西公民館だより

2018年12月10日
発行 西公民館
福山市西町1丁目19-2 Tel 925-0442
✉ nishi-kouminkan@city.fukuyama.hiroshima.jp

西学区防災訓練(避難訓練・図上訓練)

福山市総合防災訓練に合わせ、西小学校で開催

■11月25日(日)「豪雨災害」を想定した「総合防災訓練」が福山市全市を挙げて行われました。これに合わせて「西学区水害対応避難訓練」が実施されました。

福山市が9時に「避難準備・高齢者等避難開始」を発令すると、緊急メールが携帯・スマホに届きます。西学区ではこれを「避難指示(緊急)」と読み替えて、「直ぐに逃げろ!」と直ちに西小学校体育館へ敏速な避難行動をとる訓練をしました。

9時に西小学校体育館内に西学区自主防対策本部(本部長:金藤昭司)が設置され避難者の受け入れ体制が取られた。



【「しんどいけど避難せんとね!」】



【やっと着いて、大安心じゃ】

◆その後緊急メールを見た西学区の皆さんが続々と西小体育館に避難され、避難者カードに各自で氏名等を記入しました。今回は各町内会としての動員は特に掛けず各自の判断で避難して頂きましたが、対策本部の想定をはるかに超える220名の皆さんが避難訓練に参加されました。これは西学区住民

の防災意識の高さを証明するものです



「何で名前書くんじゃ?」「誰か分らんじゃ、お世話が出来んじゃろがー」

◆こうして避難者が集合した後、徳山威雄(西学区まちづくり推進委員会委員長)のミニ講話「避難の大切さ」を聞いて、避難訓練の重要性を再認識しました。



【金藤会長と対策本部の役員】



【徳山委員長の講話に聞き入る参加者】

◆10時に閉会式をしました。全員に災害非常食(レトルトおかゆとサンマ缶)の配布で避難訓練は終了しました。

避難準備が発令されたら、それぞれの隣近所や町内会で迷わず安全な場所に逃げる事が肝要です。

■「西学区水害対応避難訓練」に引き続き、10時30分より西公民館で「図上訓練」が福山市南消防署(本瓦署長他2名)の指導の下、西学区自主防の本部役員や班長・幹事・防災リーダーなどの自主防役員24名の参加により開催されました。



【本瓦南消防署長の挨拶】

◆図上訓練とはコントローラー(消防署職員)がプレーヤー(自主防本部役員等)に災害時に起こりうる被害や状況を時間を追って順次に付与して、それに対する対応(情報収集・伝達・意思決定・情報共有)をプレーヤーが検討し、決定することにより進行する訓練です。

この図上訓練は西学区としては初めての経験で、戸惑いというところがあり、コントローラーから次々と出される課題に、時間がない中をグループ内で相談し結論を出して、情報を交換するという、災害対応の大切さ(特に対策本部)が分りました。

今まで西学区は防災訓練をしても、災害が起きても成す術がなく沈黙していたので、大変役立つ訓練になりました。



【図上訓練の様子】

◆会議室を利用しました。正面にコントローラー2名、中央に対策本部5名、四方(4ブロック)に各4名、別室では一斉メール配信の担当者1名が配置して、災害時を想定した真剣な訓練でした。

◆時間の制約の中で意思決定や情報交換に時間がかかり、失敗もありましたが、西学区の一斉メール配信のシステムが想定以上の配信で有効に機能しました。ただ配信用のパソコンが離れた部屋にあるため付与された文書を届けることも一役必要でした。各ブロックは実際は遠方ですが参加者皆が一堂に会して、携帯電話を所持して、見える場所にながら相手に電話をかけました。



④【伊達副委員長のメール配信中】

⑤【徳山委員長の閉会挨拶】

◆災害時に緊急情報を伝える手段は一斉メールが最も役に立つということで、学区のホームページを担当している伊達副委員長に今回の図上訓練のメール配信を担当してもらいました。

◆図上訓練を終えて、講評と閉会の挨拶を徳山委員長がしました。避難訓練では予想以上に多数の参加者で大変有意義だったこと、福山で初めての一般市民が取り組んだ図上訓練では、自主防災を担う役員の資質向上に大いに役立ったことを喜ばれました。

多くの催しで人と地域を元気に

学区ふれあい大バザー

城北太鼓の演奏に観客は感動した



■地域のまちづくり運動を推進し、世代を越えて交流を深めようと「第29回西学区ふれあい大バザー」(西学区まちづくり推進委員会主催)が福山市西町の西小学校、西幼稚園で開催された。バザーは2年ごとに行われており、2会場それぞれにイベントを企画、子どもからお年寄りまで多くの人がか訪れた◆爽やかな秋空の下、バザーは午前10時スタート。開会式に引続き、城北中学校生徒による城北太鼓の迫力ある演奏がオープニングを飾った◆西小学校の体育館にはメインステージを設け、同小学校の4年生の語りと歌「伸ちゃんの三輪車」や、西幼稚園の園児や地元保育所の

子どもらによる手話歌とリズム体操が披露された。

■そのほか佐波芸能保存会の子ども神楽など様々なプログラムが観客を魅了した。大人気ふわふわドームや理科実験、絵本のとりかえっこには、大勢の子どもが参加。校舎内での制服のリユースや掘り出し市も好評で、お目当ての品を求めて行列が出来た。◆グラウンドには模擬店が並び、焼き鳥やぜんざい、うどんなどを販売した。◆バザー後半には、「西学区知っとる検定！」やお楽しみ抽選会、餅まきもあり、来場者は秋の休日を楽しんだ。(中国新聞チューピー号特集より)



【ふれあい大バザーの会場入り口】



【賑やかな食堂街】



【よく売れた家庭用品コーナー】



【掘り出し市】



【行列の出来たうどんコーナー】



【4年生の語りと歌】



【ノスタルジックサウンド・ジャオ♪青い山脈・枯葉等演奏】



【鼓情太鼓の勇壮な演奏】



【佐波伝統芸能伊勢神楽】

編集後記 11月11日に「西学区ふれあい大バザー」が行われ、300人を超えるスタッフにより盛大なイベントとなりました。2週間後の25日は「西学区水害対応防災訓練」が行われました。220人の参加者による避難訓練と、22人の役員による図上訓練をしました。二つの行事の共通点は「命の尊厳」でした。防災訓練では「折角頂いた命は粗末に出来ない」と命を守るための訓練をしました。そしてバザーでは隣近所や地域社会の人々と共に、楽しみ喜び合える行事を作り上げました。こうした行事をすることは、掛け替えのない命を大切にするための知恵であります。人はみんなこの世で一人ぼっちで生きるのではなく、お互いに助け合って喜んでこそ「本当の幸せ」と言えるのではないのでしょうか、二つの行事はそれを教えてくれました。(西公民館長)